

1 主題名 周囲の人々の善意や支えに感謝する心 2－(6)

資料名 忘れていたこと (出典 彩の国の道徳「自分をみつめて」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は日常の生活の中で、助け合ったり、支え合ったりしながら生きている。そのような人と人とのよりよいつながり、人間関係を築く上で大切なものが感謝の心である。中学生になって約6か月が過ぎ、それぞれの生徒が授業、学校生活はもちろん、部活動や学校行事を通し、新しい人間関係を築いている。自立心が高まり、所属する団体も増え、多くの人間とかかわる毎日を過ごしている。中学生の時期は、そのかわりの中で、自分が悩んでいるときや困っているときに、アドバイスをしてもらったり、励ましてもらったときは、素直に感謝し、その気持ちを伝えることができる。しかし、何不自由なく過ごしたり、してもらうことが当たり前になっていたりする環境には感謝の気持ちが芽生えにくかったり、相手に感謝の気持ちを伝えずに過ごしてしまったり、場合によっては気付かない時もある。そこで、中学1年生のこの時期に自分が多くの人の支えや協力によってよりよく過ごせていることに気付かせ、感謝の心を持ち、それを素直に伝えられる人間になってほしいという思いから、この主題を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級は体育祭など様々な場面で、実行委員などが中心となり目標の達成に向け、クラスを挙げて取り組んできた。そのような活動を通し、自分の役割と責任を自覚して臨むことができる生徒が多くなってきている。

生徒には、お互いに支え合ったり、協力したりすることが日常生活の中で大切であり、そして、その人たちの行いに気付き、感謝の気持ちをもてるような人間に育ててほしいと考えている。また、11月に開催予定の合唱祭への取組にも生かせるとよいと思っている。

(3) 資料の活用について

主人公「宏」は、生徒会長として文化祭を成功させようと、執行部として文化祭準備においてすべてをまとめる立場であった。文化祭前日、「自分だけで文化祭をつくっているなんて思うなよ。」と友人でもあり、生徒会副会長でもある拓海のこの一言で、宏は多くの生徒の協力と支えによって生かされている自分に気が付く。本資料を通し、お互いを思う気持ちが感謝の気持ちとなって、更に強い絆を結ぶことに気付かせていきたい。

3 指導計画 (他の教育活動との関連)

・行事との関連

6月の体育祭では、委員や係を中心に朝練や体育の授業に取り組み、みんなで協力したり、声をかけあったりしながら初めての体育祭を成功させようと、クラスで頑張って練習を行ってきた。しかし、リーダー

一任せになるなど本当の意味で一致団結できていない部分もあると感じている。クラスのためにまとめてくれる人、長縄をどんな時も回してくれる人、声をかけてくれる人などの行いに気付き、感謝の気持ちをもつことができれば、よりよい行事になったのではないかと考える。

11月にある合唱祭では、感謝の気持ちを持ち、実行委員やリーダーを中心にクラス一丸となって頑張らせたい。また1月に行われるスキー体験教室へ向けて、今度は学年という大きな集団の中での取組に、全員で協力し、支え合いながら目標に向け、行事を成功させたい。

・総合的な学習の時間との関連

みどりの学校ファームでのサツマイモの栽培を通し、地域の方に協力していただきながら、植え付けから栽培まで行った。収穫はこれから行なっていく。この活動を通して、畑を提供してくださったり、植え付けの仕方を教えてくださったりしてくださった地域の方々への感謝の気持ちをもって収穫させたい。また、自然の恵みに対する感謝の気持ちにも気付かせたい。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

まわりの人々の善意や支えがあって今の自分があることに感謝し、それに素直に応えようとする態度を育てる。

(2) 学習指導過程

過程	学習内容と主な発問	予想される生徒の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 身の回りにある出来事で、例えば給食時間、配膳台を準備されていたり、片づけられたりしているのは誰のお蔭なのか、などを考える。 (3分)	・給食委員のおかげ。 ・委員や当番がやってくれている。 ・その他の係も私たちの気付かないところで仕事をしてくれている。	○身近な事例から資料への興味・関心を高める。 ☆意欲的に話し合いを進める雰囲気づくりができたか。
展開	2 条件・状況の確認 (3分)	・資料の内容を理解し、条件・状況を把握する。 ・宏と拓海、宏と咲紀の関係を押しさえる。	○「宏」を主人公として考えさせる。
開	3 資料の範読・柱立て (7分)	・気になるところや話し合ってみたいところ、宏の気持ちが大きく動いたところを発表し、柱立てをする。	○線を引いた理由も発表させる。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>4 主人公の気持ちについて話し合う 〔発問①〕「他の部に余裕があったからよかったものの、そうじゃなかったら最悪だったな・・・」と咲紀に行った時の宏は、どんな気持ちだっただろうか。 <span style="float: right;">(7分)</span></p> <p><b>【補】</b> 宏は咲紀に対してどう思っているだろうか。</p> <p>〔発問②〕 拓海に「自分だけで文化祭をつくってるなんて思わないよな!」と言われ、すっきりしないまま帰宅した宏は、どんな気持ちだっただろうか。 <span style="float: right;">(10分)</span></p> <p><b>【補】</b> 宏が拓海に言われて言い返せなかったのはなぜだろうか。</p> <p>〔発問③〕 文化祭当日の朝、拓海から感謝されていることを言われた宏は、どんな自分に気が付いたのだろうか。</p> <p><b>【補】</b> (みんながやってくれたから) と思っている宏はどんなことに気づいたのだろうか。 <span style="float: right;">(10分)</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で突っ走る。</li> <li>・周りが目に入らない。</li> <li>・必死である。</li> <li>・役割に一生懸命。</li> <li>・責任感が強い。</li> </ul> <p>・咲紀の取組が遅い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は一生懸命やっているのに、なぜわかってくれないのか。</li> <li>・悔しい。</li> <li>・2回も責めたのは言い過ぎたかもしれない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宏の支持のもと、皆が一生懸命働いていたことに気づき、そのおかげで文化祭の準備ができ、成功させられる。</li> <li>・自分の行ってきたことは間違っておらず、みんなに認められていた。</li> <li>・実はお互いに協力して、支え合っていた。</li> <li>・文化祭を「自分の手で」大成功におさめようという気持ちではなく「みんなと一緒に」ということに気持ちに変化した。</li> </ul>	<p>○生徒会長としての責任を果たそうとするために、咲紀を責めてしまう宏の気持ちに共感させる。</p> <p>○拓海の言葉にすっきりしない気持ちや自分の言動を振り返っている姿を想起させる。</p> <p>○すっきりしない気持ちについて隣の人と意見交換をさせる。</p> <p>○みんなの協力によって生かされている自分に気付かせる。</p> <p>○感謝し、感謝されていることの素晴らしさに気づき、それに応えようとしていることを捉えさせる。</p> <p>○「自分⇄みんな」の形で感謝の気持ちがあることに気付かせる。</p> <p>☆主人公の気持ちの変化を十分に理解したか。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>5 宏が気付いた大切なことを加えて、宏の追加したあいさつ文を書こう。 <span style="float: right;">(10分)</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自ワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>○お互いを思う気持ちが感謝の心となってさらに強い絆を結ぶことに気付かせる。</p> <p>☆気付いた新たな価値観を自分の生活に生かそうとしているか。</p>

(3) 評価の観点

① ねらい達成のための生徒の達成状況項目

- ・宏の気持ちに共感し、互いに協力し支え合いながら生活することで、感謝の気持ちが芽生え、絆が深まることに気付くことができたか。

② 授業参加に対する生徒の達成状況項目

- ・他の人の意見や考えを聞くことができたか。
- ・自分の考えをまとめ、意見を発表することができたか。
- ・ワークシートの記入がしっかりできたか。

③ 教師の指導の在り方に対する評価項目

- ・資料の提示や発問は生徒の心情に迫っていたか。
- ・ねらいとする価値観や態度に迫ることができたか。

(4) 事後指導

- ・合唱祭に向け、中心となって働く委員や係、また呼び掛けに答えようとするクラスの仲間同士が感謝の気持ちをもって互いに支え合い、協力し合うよう取り組ませる。そのために、実行委員の放課後の取組や伴奏者の夏休みからの練習などを紹介していきたい。そして、日々の練習や生活が集団で1つのことを成し遂げるために大切なことを理解させ、充実した行事としたい。

また、スキー体験教室や3年生を送る会へ向けて、さらに大きい集団になっても、互いに支え合い協力し1つの目標へ向かっていく中で互いに感謝し合える生徒たちを育てたい。

5 資料分析

資料名「忘れていたこと」

《スタートの状況》

〈登場人物〉主人公「宏」 生徒会長 (文化祭実行委員会 執行部)

〈状況〉

- ・拓海 (副会長 文化祭実行委員会 執行部)  
宏をバックアップしながら、ともに文化祭準備を進めている。
- ・咲紀 (文化祭実行委員会 装飾部)
- ・文化祭と記念式典が迫っている。しかし、咲紀が担当する装飾部が遅れている。

《話題につなげたい場面》

宏の人物像に迫りながら、責任感がある部分と一人で突っ走る部分があり、一生懸命に準備に取り組んでいるがその気持ちが空回りしている。

《キーワード》

- ・他の部に余裕があったから、よかったもの・・・。
- ・自分は装飾部につきっきりでいることはできない。

《考えさせたい心の内》

生徒会長としての責任を果たそうとするために、周りを責めてしまう宏の心の内。

拓海の思いがけない態度に、宏は何も言い返すことができず、すっきりしない気持ちを抱えたまま帰宅した。

- ・拓海の思いがけない態度に汗がにじんでくるのを感じる。
- ・学校を出ても足取りは重い。

自分は文化祭のために一生懸命頑張っているが、そのことを周りに分かってもらえない宏の心の内。

文化祭当日の朝、拓海から「感謝している」と言われ、自分が忘れていた大切なことに気付いた。

→

・みんながやってくれたから…。  
・感謝？……。  
・何かが吹っ切れたような気がして、昨日までとは違う自分を感じていた。

→

みんなの協力によって生かされている自分と、感謝し感謝されることの素晴らしさに気付いた宏の心の内。

## 6 板書計画





